

## 活 用 技 術

平成 24 年度

子豚への米飯残さ飼料の配合飼料との代替給与は、発育が同等で、飼料費を低減できる		
[要約] <u>包装米飯主体の残さ飼料</u> にリジン等のアミノ酸を添加し、市販の配合飼料の30%を代替し、離乳子豚や子豚に給与した結果、日増体量、飼料要求率に差はなく、 <u>飼料単価を軽減</u> できる。		
農業総合研究所畜産研究センター 生産・環境科	連絡先	TEL 0256-46-3103 FAX 0256-46-4865

## [背景・ねらい]

飼料の自給生産や、食品残さの飼料化が望まれる中、県内では包装米飯等の食品残さやなどが多く排出されている。子豚用の配合飼料は価格が高く、食品残さ等で代替できれば、飼料費の低減が期待できる。そこで米由来の食品残さ等を子豚に給与し、その影響について解明する。

## [成果の内容・特徴]

- 1 市販の配合飼料を、リジン等のアミノ酸を添加した包装米飯主体の残さ飼料（以下、米飯残さ）に、約30%代替して離乳子豚や子豚へ給与した結果、日増体量や飼料要求率に差はなく、同等の発育となる（表1，2，3）。
- 2 離乳子豚への米飯残さの給与による流動便や水様便の発生の増加はなかった（表4）。
- 3 米飯残さを市販飼料と30%代替することにより、離乳子豚期で約25%、子豚期で約20%の飼料単価が低減される（表5）。

## [成果の活用面・留意点]

- 1 飼料の混合は、市販の小型の飼料混合機等を用いることで容易にできる。
- 2 この試験に用いた包装米飯主体の残さ飼料は県内で販売されている。
- 3 この試験に用いたアミノ酸やリンカルは飼料会社や動物医薬品販売会社等から購入できる。
- 4 この試験は、平成23年の2～4月に実施し、25日齢で離乳したランドレースの子豚に、離乳子豚用飼料を10日間、その後、子豚用飼料を28日間給与した結果である。

[具体的データ]

表1 飼料成分 (%)

	CP	水分
米飯残さ	11.1	10.1
離乳子豚用飼料	22.0	—
子豚用飼料	18.5	—

CP:粗タンパク質(原物当たり)

表2 給与飼料の配合割合 単位:%

	米飯						配合飼料
	配合飼料	米飯	Lys	Thr	Met	リンカル	
離乳子豚期	69.6	29.9	0.30	0.10	0.20	—	100.0
子豚期	69.0	29.9	0.26	0.15	0.10	0.65	100.0

Lys:リジン, Thr:トレオニン, Met:メチオニン, リンカル:第2リン酸カルシウム

表3 日増体量(DG)および飼料要求率

	米飯		配合飼料	
	DG	飼料要求率	DG	飼料要求率
離乳子豚期	0.32	1.33	0.33	1.34
子豚期	0.63	1.83	0.65	1.77

単位、DG:kg/日、各区2群(5~7頭/群)

表4 ふん便の性状別発生割合 (%)

性状	評価	米飯	配合飼料
正常便	良好	78.2	67.8
軟便	やや良好	2.8	12.0
流動便	やや不良	10.7	13.5
水様便	不良	8.3	5.6

表5 試算飼料単価と飼料費

	単価:円/kg(対配合飼料割合:%)		飼料費:円/頭(対配合飼料割合:%)	
	米飯	配合飼料	米飯	配合飼料
離乳子豚期	186.2 (75.2)	247.7	792 (72.3)	1,095
子豚期	80.8 (83.7)	96.5	2,608 (83.9)	3,109

試算単価(円/kg):米飯残さ(35), Lys(400), Thr(640), Met(800), 第2リンカル(150)

飼料費:日増体量(kg/日) × 給与期間(日) × 飼料要求率 × 飼料単価(kg/円)

[その他]

研究課題名: 豚への米由来残さの有効利用

予算区分: 県単経常

研究期間: 平成21~23年度

発表論文等: なし